

あるべき姿を考える上での住民意見の取り扱いについて

平成16年10月20日に発生した台風23号による災害を受け、流域委員会では流域住民の皆様をはじめ、円山川の河川整備に関心をもたれている皆様方のご意見をお聴きし、今後の円山川河川整備計画に活かすため、意見交換会「オープンフォーラム」を開催致しました。

また、国土交通省においては、再度災害防止を目的とした円山川緊急治水対策を策定し、事業が進められており、円山川下流部の区間については円山川下流部治水対策協議会が設置され、住民の意見も踏まえた整備の方法等について検討が行われています。

このように災害を契機として、多くの住民から流域委員会や河川管理者等にご意見が寄せられています。

このように寄せられた貴重なご意見を、流域委員会としてどのように活かしていくかを審議する必要があります。

あるべき姿を考える上での住民意見の取り扱いについて、考え方の手順例を以下に示します。

オープンフォーラムでの住民意見、下流部治水対策協議会でのアンケート結果、日高町治水大会アンケート結果、その他、河川整備計画を検討する上で有益とみなされる住民意見の調査結果等、既存公表資料を最大限活用するために、それらの収集を進める。

これらの住民意見を円山川のあるべき姿に反映する一方法として、住民の意見や要望などを項目別に分類する。(オープンフォーラムで得られた意見について整理した事例を次ページに示します)

既往の調査に示された住民意見がどのようにあるべき姿の議論に反映されたかが判るように、審議した結果を住民へ提示することによって、聞きっ放しとはなっていないことを理解して貰えるように努力する。